

絆
きずな

東日本大震災津波 ～被災校支援の歩みとこれから～



岩手県中学校長会総会において、平澤千麻子副会長（城西中）から、東日本大震災津波から4年が経過した今、これまでの4年間の被災校支援の歩みとこれからの方向性について説明が行われた。

あの「東日本大震災津波」から4年が経過しました。岩手県中学校長会では、発災直後から、生徒の学習や活動を再開するため、出来るところから支援・対応を行ってまいりました。

節目ともなる5年目を迎えた今、新しく会員とられた多くの校長先生方とともに、これまでの校長会の支援の歩みを振り返り、風化が叫ばれる現状を打破すべく、これからの支援の方向を全会員で確認する時間としたいと思います。

【これまでの支援の歩み】

- ① 発災直後から現地踏査等による情報収集に努め、「生徒がいち早く学習できる環境」を整備するため、物資の提供を呼びかけ、収集・配布に努めました。
- ② その中で、顔の見える支援と日常の情報共有を意図した「横軸連携」の構築と稼働にこぎつけました。
- ③ また、日夜、粉骨砕身、尽力いただいている沿岸被災地の校長先生、そして教職員を少しでも支えたいと、「被災地校長との情報交換会」を行いました。
- ④ 震災後1年を経過した平成24年3月には、この間の取り組み等を中心として、「中学校教育の立場から東日本大震災津波と向き合ってきた経緯」を『東日本大震災の記録・第1集』として編集しました。
- ⑤ 全日本中学校長会からの支援を活用して「わらび座公演・走れメロス」を2年間に渡り県内全被災校27校で開催しました。
- ⑥ その間、継続した取組として、沿岸各校の状況を視察し校長先生方の思いを聞きとり、横軸連携や姉妹校支援の進め方について協議を行いました。
- ⑦ 一昨年、昨年と全日本中学校長会とベルマーク財団からいただいた浄財を活用してバス支援を行い、部活動交流・生徒会交流・被災地訪問等を行いました。
- ⑧ 震災後3年が経過した昨年の3月に、一つの節目として、『東日本大震災の記録・第2集』を発刊しました。「震災を忘れない・風化させない」という思いを発信する一助となることを願っての発刊でした。

【被災校支援のこれから】

さて、発災から4年が経過した今、岩手県中学校長会として、これからの取組の方向性について検討を進めてまいりましたが、昨年度までの被災校訪問や理事・評議員会議の協議を通じての方向性として次の三点をあげたいと思います。

- ① 第1点目は、横軸連携及び姉妹校連携の継続です。これまで培ってきた連携の輪を大切に引き継ぎ、バス支援も可能な限り継続させたいと考えています。
- ② 第2点目は、被災校訪問等による情報収集の継続です。被災地に赴き、復興の現状や各学校の環境、活動の様子を、直接見聞することにより校長先生方の学校経営を支援してまいります。
- ③ 第3点目は、校長が、いわての復興教育がめざす、3つの教育的価値、【いきる】・【かかわる】・【そなえる】を育てる中核となるということです。

最後になりますが、今年度も、岩手県中学校長会の強固な絆のもと、東日本大震災津波による被災地校への支援を継続してまいりますので、会員すべての皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。